

令和 8 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価に関する報告書
(対象年度：令和 7 年度)

高萩市教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	趣旨	1
2	点検及び評価の対象	1
3	点検及び評価の方法	1
4	外部評価委員	1
II	点検及び評価結果	
1	教育委員会の活動	2
(1)	教育委員会の構成	2
(2)	令和7年度教育委員会月別開催状況	2
(3)	学校訪問	2
(4)	教育委員研修	3
2	教育委員会が管理・執行する事業	4
(1)	学校教育	4
(2)	生涯学習	15
(3)	スポーツ振興	17
(4)	市民文化	20
(5)	防犯	24
(6)	人権	25
III	外部評価委員会委員の意見	27
IV	参考資料	
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	27

1 はじめに

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」といいます。）第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用した点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、公表しなければならないとされています。

このため、高萩市教育委員会では、法律の趣旨に則り、より効果的な教育行政の推進を図るため、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和7年度実績）」をまとめ、議会に報告するとともに公表することとします。

2 点検及び評価の対象

本市の市政運営の基本である第6次高萩市総合計画「地域力が笑顔をおまち 高萩」及び教育委員会の運営の基本である「高萩の教育」における重点戦略を構成する施策のうち、令和7年度に教育委員会が実施した主な事務事業を点検及び評価の対象としました。

3 点検及び評価の方法

教育委員会が実施した事務事業を「1 教育委員会の活動」と「2 教育委員会が管理・執行する事業」に大別し、項目ごとに自己点検評価を行いました。この評価にあたっては、各事業の進捗状況や成果に応じて、「順調（計画通り、またはそれ以上に実施され、良好な成果が得られている状態）」「ほぼ順調（概ね計画通りに進捗しており、特段の問題がない状態）」「横ばい（進展が見られず、現状維持に留まっている状態）」「不調（計画を下回っており、改善が求められる状態）」の4段階の評価基準を設定しました。

また、点検と評価の客観性を確保するために、事務局内部で実施した点検と評価報告について、教育に関し深い知識を有する者（外部評価委員）の意見を求めました。

4 外部評価委員

（敬称略）

氏 名	所 属
落 合 武	元高萩小学校校長
長谷部 栄 子	市文化会館運営委員会委員
岩 間 信 雄	市スポーツ推進委員協議会会長

II 点検及び評価結果

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の構成

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	大 内 富 夫	令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 31 日 ※令和 8 年 3 月 31 日退任
教育長職務代理者	小 林 正 治	令和 4 年 10 月 1 日 ～ 令和 8 年 9 月 30 日
教育委員	増 子 恵 美	令和 6 年 10 月 1 日 ～ 令和 10 年 9 月 30 日
教育委員	佐 川 睦 子	令和 7 年 10 月 1 日 ～ 令和 11 年 9 月 30 日
教育委員	鷺 真由美	令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 11 年 3 月 31 日

(2) 令和 7 年度教育委員会月別開催状況

教育委員会では、付議された案件についての審議や報告等を行う定例会を毎月 1 回開催する他に、必要に応じて臨時会を開催しました。また、教育委員の意見交換や研修活動等の場として協議会を開催しました。

教育委員会では、29 件の議案と 5 件の報告について審議しました。人事案件や教育委員会規則の制定又は一部改正等について慎重かつ迅速な審議が適正に行われました。これらにおいては、本市の教育行政について様々な視点から建設的に議論されてきました。

教育委員会では、第 6 次高萩市総合計画で示された主要施策である「未来を切り拓く地域人（萩っ子）が育つまち」等の実現に向けて、様々な事業の展開に努めてきました。

(単位 回)

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定例会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
臨時会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3

(3) 学校訪問

教育委員会と学校現場が互いに共通認識を持ち、より良い学校教育を推進することを目的として、学校園訪問を実施しています。教職員が実際に指導している様子や子どもたちの様子を把握するとともに、学校及び園での取組や課題について意見交換を行っています。

月 日	場 所
6 月 17 日	秋山小学校、東小学校、高萩中学校
6 月 18 日	高萩小学校、松岡中学校、たかはぎ認定こども園
6 月 24 日	松岡小学校、秋山中学校
1 月 22 日	高萩小学校、秋山小学校、秋山中学校、たかはぎ認定こども園
1 月 23 日	東小学校、松岡小学校、高萩中学校、松岡中学校

(4) 教育委員研修

国・県・他自治体の取組等に触れる機会を設け、委員としての見識を深めるため、研修に参加しました。

月 日	場 所	内 容
4 月 15 日	日立市教育会館	県北市教育委員会連絡協議会定期総会 ・ 県北管内の教育行政について ・ 各市教育委員会の現状と課題について
5 月 23 日	水戸市総合教育 研究所	茨城県市町村教育委員会連合会総会・講演会 【講演】 「いじめをなくす、わたしたちの“在り 方”とは？」 講師 黒岩 禅
11月 13 日	水戸市総合教育 研究所	茨城県市町村教育委員会連合会教育部長等 研修会 【講演】 「学校の働き方は変わる！」 ～生成 AI 時代の ICT の広め方～ 講師 栗原 太郎

2 教育委員会が管理・執行する事業

(1) 学校教育

一人一人の個性や能力、可能性を広げる教育内容を充実させ、生涯をよりよく生きるための豊かな心と健やかな体を持つ、いきいきとした荻っ子を育てます。

地域の特性や実態に合わせた指導体制や教育施設の充実に努め、豊かで安心して学べる教育環境を整備していきます。

事業名	① 教育環境の整備			
施策の内容	○児童・生徒数の減少や学校施設の老朽化等の実情を踏まえ、学校施設の適正な配置・整備を進めます。 ○国のGIGAスクール構想を踏まえ、ICT教育の環境整備と指導内容の充実に努めます。			
担当課	教育総務課・学校教育課			
実施内容	○教育環境の向上及び災害時における避難所機能の強化を目的として、学校体育館への空調設備の整備を計画的に進めている。令和7年度は、高萩小学校、東小学校の2校の体育館に空調設備を整備し、市内7校全ての体育館に空調設備が整った。 ○情報モラル教育や情報セキュリティに関する学習を年間指導計画に基づき、計画的に実施した。「事例で学ぶNetモラル」は、各校において学級活動や総合的な学習の時間等で活用した。CBTテストの実施回数は小学校1,891回、中学校568回で、昨年度を下回ったものの、教材を活用した情報モラル教育は継続して実施した。 ○教職員のICT活用指導力を含む「現場力」の基礎及び実践力を高めることをねらいとし、希望する教職員を対象に研修会を実施した。参加者のニーズに沿った研修内容とし、参加者が教育活動上の悩みや不安を解消できるようにした。 ○各小中学校に週1回程度配置のICT支援員による、授業支援や更新作業、端末の操作支援等を行い、ICT活用の促進を図った。また、各学校において長期休みを利用し、ICT支援員が講師となり、授業における活用方法についての教員研修を実施した。 ○授業参観や新入生説明会に加え、学校行事や面談の際に、チラシ等を用いて保護者向けに情報モラル教育の動画視聴を促し、家庭と連携できるようにした。 ○前年度、「高萩市立義務教育学校施設整備基本構想・基本計画」を策定したが、激しい物価高騰や資材価格の上昇といった社会経済情勢の急激な変化を受け、事業の実施時期を見直すこととした。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調

課題と今後の取組	○蛍光灯の製造中止に伴い、学校施設のＬＥＤ照明更新を図っていく。 ○国の第２期ＧＩＧＡスクール構想にあわせた、１人１台端末の更新を図っていく。 ○実施時期の見直しとなっている学校再編について、必要に応じ計画変更も実施し、早期に方針を決定し事業に着手する。 ○１人１台端末の不適切な利用やＳＮＳトラブルの発生等が見られる。家庭と連携した情報モラル教育をさらに推進していく。 ○ＩＣＴ支援員の活用では、特に小学校においては、授業支援が主な活用の目的であるが、端末の故障等への対応が増加傾向にあり、授業支援に充てる時間が減少している。今後、情報教育主任や管理職との役割分担を明確にするよう各学校に助言する。
----------	---

主要事業指標 (総合計画の 成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
小中学校幼稚園の適正配置・整備	—	—	—	—	—	児童生徒により良い学習環境を提供するため、学校適正配置計画策定を進め、学校適正配置の具体化に向けた事業の推進を図る。
小中学校ＩＣＴ教育環境整備	—	—	—	—	—	国のＧＩＧＡスクール構想を踏まえ、ＩＣＴ教育環境整備と運用方法や指導内容の充実に努める。

外部評価委員の評価	○計画的に教育環境の改善及び災害時における避難所機能の強化が図られ、市内小・中学校7校の体育館に空調設備が整備された。今後は、LED照明への計画的な転換が期待される。 ○学校での授業以外に「事例で学ぶNetモラル」にログインして学習する児童生徒が多く、CBTテストも小学校で1,891回、中学校で568回実施されている。また、教職員のニーズに沿った研修内容を工夫したICT活用研修も実施されており、計画的に情報モラル教育や情報セキュリティに関する指導が確実に進められている。高く評価するとともに、継続実践を期待している。 ○授業参観や新入生保護者説明会に加え、7年度は学校行事や面談等の場も含めて保護者に情報モラル教育の動画視聴を促しており、各小・中学校の実情に沿った無理のない保護者への啓発がなされている。 ○体育館の空調が、市内の学校全てに入り安心した。これからは、一年中快適に体育館を利用できてよいと思う。
------------------	--

事業名	② 確かな学力の定着			
施策の内容	○訪問指導と定期的な研修を通して教員の授業力を向上させ、児童生徒の学力向上につなげていきます。 ○家庭学習については、課題の内容や与え方を工夫するなど、より実効性のある家庭学習の実現に向けて取り組みます。			
担当課	学校教育課			
実施内容	○新規採用から３年目までの教員や希望する講師を対象に、教科等指導員が個別に指導案作成から授業実践、振り返りまでをサポートし、基礎的な授業力の向上を図った。 ○「一人授業研究」を実施し、全ての教員が自らの授業を録画（録音）することで、客観的な視点で自分自身を振り返り、自分の強みや改善点を見つける機会を年間３回設けた。 ○茨城大学教育学部附属小学校から講師を招き、３年目の教科等指導員による公開授業（国語科、特別活動）と参加者による研究協議を行った。参加者全員での活発な研究協議を通して、今求められる授業の在り方について学びを深めた。 ○全国学力・学習状況調査や県学力診断のためのテスト結果の分析を踏まえ、基礎力アップチャレンジ問題やアセスメント問題等を一人一台端末に配付し、家庭学習等で取り組めるようにした。 ○授業力パワーアップ訪問（算数）では、担当教員と指導主事が連携し、自ら課題を見いだすことができる導入の工夫や学習指導案の検討、授業の実践、そして詳細な研究協議を重ねることで、指導力の向上を図った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○各学校の学力向上リーダーや教務主任が中心となって作成する「学力向上プラン」については、めざす児童生徒の姿を全教職員で共有し、一人一人が当事者意識をもって実践できる体制づくりを促す。また、R P D C Aサイクルに基づく定期的な振り返りと改善が図られ、実効性のあるプランとなるよう、学校訪問や各種研修等を通して指導・助言を行う。 ○授業力向上研修については、対象者の実態やニーズを踏まえた研修内容となるよう見直しを進める。また、「一人授業研究」が児童生徒一人一人の達成感や成就感につながる授業づくりに資する取組となるよう、研修の在り方について検討を進めるとともに、学校へ指導・助言を行う。			

主 要 事 業 指 標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
県学力診断テスト市平均点と県平均点との差 (小学校)	－	-2.6 点	-3.9 点	-3.4 点	-1.8 点	+0.5 点
県学力診断テスト市平均点と県平均点との差 (中学校)	－	-5.3 点	-2.9 点	-3.9 点	-2.8 点	+0.5 点
県学力診断テスト市平均点と県平均点との差 (英語)	－	-8.3 点	-7.2 点	-6.7 点	-4.3 点	0 点

※令和２年度県学力診断テスト…新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

外 部 評 価 委員の評価	○「一人授業研究」、茨城大学附属小学校教諭を講師とした公開授業、新規採用から３年目までの若手教員等への実践的な授業づくりの研修会、授業力パワーアップ訪問を活用した研究協議等、７年度も継続して教師一人一人への授業力向上を図る取組が着実になされており、素晴らしい。 ○「主要事業指標」における小・中学校の「県学力診断テスト市平均点と県平均点との差」では、まだマイナス領域ではあるが確実に向上してきており、市全体での授業改善の取組の成果であると高く評価したい。ＩＣＴの効果的な活用法の市全体での共有と同様に、効果的な指導事例も学校訪問の際等に紹介するなどして共有を図っていただきたい。
------------------	---

事業名	③ 豊かな心の育成
施策の内容	○環境教育、ボランティア活動、体験学習等の幅広い学習機会を取り入れ、社会の変化に適応できる自主性・自立性のある児童生徒の育成に努めます。 ○児童生徒の取組を積極的に認め、称賛することで、自尊感情や自己肯定感を高めていきます。
担当課	学校教育課
実施内容	○W E B Q Uアンケートを年に2回実施し、人間関係や学級への適応状況、支援の必要性の把握に努めることで、より良い学級づくりといじめや不登校の未然防止や早期発見につなげた。また、W e b上での実施のため、教職員が即座に結果を活用する意識の高揚を図った。 ○いじめ認知件数については、積極的な認知と認知後の適切な対応に努めた。 小学校：245件（24.7％）※令和6年度 264件（25.3％） 中学校：107件（19.3％）※令和6年度 124件（22.2％） ○スクールカウンセラーや心の教室相談員、生活指導員、教育支援センター支援員などを配置し、児童生徒を相談しやすい体制を整備した。 ○学校生活アンケートに加え、小中学校でのS O Sオンライン相談窓口の設置や中学校におけるフォーサイト手帳への日記等、児童生徒がS O Sを出せる場を提供した。 ○中学校においては、全校に校内フリースクールを設置し、生徒が安心して過ごせる居場所づくりに努めた。その結果、教育支援センター「萩のひろば」と校内フリースクールの双方において、生徒がその日の状況に応じて自分のペースで通室する姿が見られるようになり、切れ目のない支援につながった。また、校内フリースクールの設置により、心の教室相談員等が一人ひとりの生徒と継続的に関わることができるようになり、きめ細かな支援の充実につながった。 ○いじめ根絶フォーラムや人権集会、児童生徒主体の校則の見直し等、児童生徒が自分事として考え、主体的に適切な行動がとれるように特別活動の充実に努めた。 ○道徳教育推進教師を中心に、年間指導計画の見直しや授業実践、校内研修を実施するなど、学校教育活動全体を通して道徳教育の充実を図った。 ○「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」による読書活動を推進した。 小学校4～6年：年間50冊以上 326人（64.8％） ※令和6年度 469人（84.8％） 中学校1～3年：年間30冊以上 69人（12.5％）

※令和6年度 125人(22.5%)				
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○SNS上のトラブルやコミュニケーション能力に関する課題により、児童生徒間の対人トラブルが増加している。学級活動や児童会・生徒会活動、ボランティア活動など、児童生徒が主体的に関わる活動を充実させ、良好な人間関係の構築につながる絆づくりを推進する。 ○いじめの認知においては、解消に向けて対象児童生徒の見守りや支援の徹底が必要である。各学校が作成している「いじめ防止基本方針」に則り、全教職員がいじめやいじめ重大事態の定義や適切な対応について、くり返し研修を重ねる。 ○担任や学年担当職員に加え、養護教諭、スクールカウンセラー、心の教室相談員など、複数の大人に相談できる環境を整え、子どもたちが安心してSOSを出せる雰囲気づくりに努める。 ○学力向上に係る事業や情報モラル教育等の実施により、教育課程全体の中で読書活動に充てる時間の確保が難しくなり、児童生徒の読書冊数が減少した。今後は、学校図書館事務と連携し、児童生徒の発達段階や興味・関心に応じた図書の紹介や企画展示、読書イベントなど、読書に親しむきっかけづくりを充実させるとともに、学校に対して読書活動の充実に向けた取組を働きかける。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
萩っ子5(5つの約束)を意識した生活を送れた児童生徒の割合	84%	84.6%	82.9%	83.6%	85.6%	88%
みんなにすすめたい一冊の本達成率(小学校)	86.9%	88.0%	84.6%	84.7%	64.8%	90.0%
みんなにすすめたい一冊の本達成率(中学校)	29.3%	21.7%	20.4%	22.5%	12.5%	20.0%
スクールカウンセラーへの相談回数	1,804回	1,744回	2,515回	2,303回	2,065回	2,000回
心の教室相談員への相談回数	193回	190回	195回	212回	173回	190回
萩のひろば支援員への相談回数	58回	83回	50回	16回	29回	60回

※WEBQアンケート…学校生活における児童生徒の満足感や意欲、学級集団の状態等をWEBでのアンケートによって測定するもので、児童生徒の理解を補うとともに、学級の状態の客観的・多面的な理解に活用でき、いじめや不登校、学級の荒れ等の未然防止に役立てる。

※フォーサイト手帳…「振り返り力」を高め、主体的に目標を達成する力を身に付けることを目的としている。

※萩っ子5（5つの約束）

- 1.進んで学習します
- 2.誰にでも優しくします
- 3.明るく元気に過ごします
- 4.高萩のよさを学びます
- 5.夢に向かって行動します

外部評価 委員の評価	○年2回のWEBQ アンケートの結果を教職員が即座に活用していく意識の高揚を図り、よりよい学級づくり、いじめや不登校の未然防止と早期発見につなげられるよう助言に努めている。大変だと思うが、今後も是非継続していただきたい。 ○7年度も各小・中学校の「オンライン相談窓口」が設置され、中学校ではフォーサイト手帳の活用を図る取組がなされており、児童生徒がSOSを発信しやすくなっている。今後も継続的な取組をお願いしたい。 ○校内フリースクールが設置されてから2年目を迎えた。心の教室相談員等が生徒と関わる機会や時間が増えたことは、その成果と考えられる。一人一人にあった対応を引き続きお願いしたい。 ○「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」による読書活動の数値が、小・中学校ともに昨年度より大きく下回った。教育課程上での読書時間の増加は難しいところではあるが、一人一台端末を効果的に活用して電子図書館を閲覧する等、家庭での読書の機会が確保されるとよいのではないか。「読書量と学力」、「読書と『豊かな心』と言語力の育成」については、文科省の調査結果で相関関係が指摘されているので、家庭と協力して読書の機会や時間が確保されるよう、今後、各小・中学校への助言に努めていただきたい。
---------------	---

事業名	④ 健やかな体力の向上			
施策の内容	○体育の授業や部活動等を通して、児童生徒の体力の向上に努めます。 ○民間企業との連携による水泳学習、体育的行事、部活動、スポーツチャレンジ等を通して運動への興味関心を高めます。 ○安心な給食の提供及び食育の推進に努めます。			
担当課	学校教育課・教育総務課			
実施内容	○引き続きＩＣＴを効果的に活用しながら、体育の授業を展開した。（１人１台端末で手本となる動画の検索・活用、児童生徒同士が撮影した動画、映像再生遅延アプリの活用、学習カードの記入など） ○各小中学校の実態に応じて投力や瞬発力、基礎体力などの向上を図る「体力アップ１校１プラン」を作成し、年間を通して計画的に体力向上に努めた。 ○小学校においては、体育専科教員に加え、教育課程を工夫し、保健体育免許所持教員が他学級の体育の授業を行うなど、児童にとってよりよい学習環境が実現するように配慮した。 ○はぎッズ応援隊や中学生が小学校を訪問し、陸上指導をするなど、児童がより多くの指導を受ける機会を設けた。 ○令和６年度より、全小中学校において、民間企業における水泳学習を実施し、専門的な指導により、児童生徒の意欲や泳力の向上につながった。 入水率 小学校：８５％ 中学校 ７０％ 泳力が向上したと実感した児童生徒 小学校：６０％ 中学校 ６５％ ○発達段階に応じて、食の専門家である栄養教諭と連携するなど、食について考える学習に取り組んだ。 ○給食の残食を減らすため、各校では給食主任による食に関する指導や、給食委員会が主体となった昼の放送やポスターづくりなど、苦手な食べ物にも挑戦できる働きかけを行った。また、食欲を促すメニューづくりに努めた。 ○学校単位での給食の残食調査を行い、食品ロスについて児童生徒が自ら考える機会を設けた。 ○「給食だより」の発行や市ホームページへの「今日の給食」の掲載、学校での「給食試食会」を通し、家庭での食育の推進や学校給食への理解を深めることに努めた。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○全職員及び児童生徒が自校や自己の課題を共有し、組織的に体力アップ推進プランに取り組めるようにしていく。 ○水泳学習において、中学校では保健体育科の教員も入水し、			

	指導にあたるほか、「指導と評価の一体化」の視点に基づき、児童生徒一人ひとりへの個別の指導を多く取り入れる。 ○良好事例を積極的に取り入れるなど、効果的なＩＣＴ活用について研修を継続していく。 ○各学校においては、栄養教諭のみならず、各学級及び学年で食に関する学習の機会を確保し、児童生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。 ○便りやマチコミ、授業公開を通して、家庭における望ましい食育の啓発を推進する。 ○安全安心な給食の提供を継続するとともに、地域との連携を通じた地産地消の取組を推進する。
--	--

主 要 事 業 指 標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
部活動指導員配置校数	1校	1校	2校	2校	2校	3校
学校給食の残食率	18.2%	21.3%	16.3%	17.1%	17.7%	15.0%

外 部 評 価 委員の評価	○体育の授業でのＩＣＴ活用の効果的な活用が継続されており、「体力アップ1校1プラン」を基に年間を通して体力向上に努めていることを高く評価したい。 ○体育科の学習目標実現に向けて、小学校において体育専科教員に加え、保健体育免許所有の教師も参加して授業が行われるよう、教員数が限られる中でも教育課程を工夫しており、素晴らしい取組である。正しい体の使い方や運動・競技について学ぶことで、子どもたちにとっても、体を動かすことが楽しくなっているのではないかな。 ○小学校での陸上競技の指導に、はぎッズ応援隊や中学生が出向いての指導が継続されており、よい取組である。 ○給食主任による指導、給食委員会の児童生徒による活動、栄養教諭による授業、給食だよりの発行、教育委員会ホームページの「今日の給食」の掲載等、丁寧な取組が毎年度継続的に実施されており、本当に素晴らしい。
------------------	--

事業名	⑤ 開かれた学校運営			
施策の内容	○全ての学校でのコミュニティ・スクール導入を契機として、学校、家庭、地域の連携をより一層密にして学校教育を推進します。 ○自殺・いじめ防止等の対策として、外部機関との連携を強化し、新たな学校支援体制の構築に取り組みます。			
担当課	学校教育課・生涯学習課			
実施内容	○各コミュニティ・スクールが会長及び地域連携コーディネーターを中心に、地域の実態や特色を生かしながら、それぞれの課題や目指す児童生徒像を共有し、活動した。さらに、県北教育事務所主任社会教育主事を講師に迎え、研修会を実施した。 ○地域連携コーディネーター研修会を年間4回実施し、コーディネーターとしての役割を明確にするとともに、地域学校協働本部リーダーと合同で研修会を実施し、連携を深めた。 ○いじめ問題対策連絡協議会を年間2回開催し、スクールロイヤーによる講話や、各学校の取組について様々な立場に立つ委員間で情報共有や意見交換を行った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○関係職員だけでなく、全教職員がコミュニティ・スクールについての理解を深め、課題解決や各種活動のさらなる充実を図る。また、委員の選出にあたり、協議の場を適切に設けながら、学校と地域がより連携を深める。			

※はギッズ応援隊活動例

- ・授業支援、クラブ活動支援
- ・登下校の見守り
- ・放課後子ども教室（わんぱく広場）
- ・学校や地域行事の企画・運営

外部評価委員の評価	○これまでの取組に加え、7年度は県北教育事務所主任社会教育主事を講師に迎えての研修会が実施された。コミュニティ・スクールの機能の充実のために、今後も各コミュニティ・スクールの実情やニーズに合わせた柔軟な研修会の実施に努めていきたい。
-----------	--

(2) 生涯学習

誰もが自由に学習機会を選択して学び、それを地域や家庭内で活かしていくことで、生きがいや充実感を持って暮らせる社会を目指します。

事業名	① 生涯学習機会の充実と地域・家庭の教育力向上			
施策の内容	○生涯学習とは何かを市民に広く啓発し、一人一人のニーズに対応したきめ細かな学習機会を提供するとともに、世代間交流の機会拡大につなげます。 ○地域や世代を超えた生涯学習機会の充実により、学びの成果を地域に生かすとともに、家庭の教育力向上に向けた取組を推進します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○市民の生涯学習活動の一助となる生涯学習情報誌「学びいきいき高萩2025」を作成し、ホームページに掲載した。 ○高萩市子ども会育成連合会や高萩市青少年相談員協議会と連携し、子ども達の健全育成を目的とした事業として「サマージャンボリー」「少年探検講座」「子ども会のおもしろ理科実験室」を実施した。また、令和6年度は新庄市の豪雨災害の影響により中止となった、友好都市である新庄市児童との交流事業「高萩ジャンボリー」、「萩っ子歴史探検隊」を実施した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○少子化や地域子ども会の解散に伴い、夏季事業への参加者が減少している。令和8年度の学区単位子ども会発足に向け、令和7年度は会則の整備及び保護者説明会を実施した。今後は、新たな運営体制の定着を図るとともに時代に即した子ども会活動の在り方について検討を進めていく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
市民指導者登録数	60人	55人	54人	49人	43人	60人

外部評価 委員の評価	○市全体の児童数減少、子ども会への加入児童数の減少の中で、子ども会育成連合会や市青少年相談員協議会と連携しての「サマージャンボリー」「少年探検講座」の継続実施は素晴らしい。7年度は加えて「子ども会のおもしろ理科実験室」の学習機会の提供がなされており、高く評価したい。 ○学区単位子ども会発足に向けての会則の整備や保護者説明会が実施されており、着実に時代に即した子ども会の創造に向けて対応している。
---------------	--

事業名	② 社会教育施設の整備と活用			
施策の内容	○社会教育施設の適正配置・管理体制を整え、市民に愛される施設として活用します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○文化会館では舞台昇降装置や音響、照明などの定期的な保守点検を実施し、安全管理に努めた。また、映画会やコンサートを実施し、市民の文化芸術に親しむ機会の充実を図った。 ○図書館では、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、楽しめる図書館となるよう「図書館まつり」「おはなし会」「おりがみ教室」「読書会」「朗読会」等を年間を通じて開催した。また、電子図書館の閲覧、貸出冊数が前年度を上回り、市民の読書機会及び生涯学習環境の充実が図られた。 ○視聴覚ライブラリーでは、主に市行事の撮影及び映像記録の作成を行った。また機材や映像記録の貸出し・販売も行った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○社会教育施設の老朽化が進行していることから、高萩市公共施設等管理計画を踏まえ、施設の集約・廃止に向けた検討を進めている。今年度は、各施設の改修・更新箇所の洗い出しを行い、今後の整備方針を検討していく。			

外部評価委員の評価	○文化会館の保守点検や整備と活用について、また市立図書館での行事について具体的に記載されている。子どもから高齢者まで幅広い市民に愛される社会教育施設としてよく努力されている。市立図書館での電子図書館の閲覧数や貸出冊数の増加は不断の努力を重ねた結果であると感じる。
-----------	---

(3) スポーツ振興

各種スポーツ教室や講習会等の充実及びスポーツ施設の適切な維持管理により、幅広い世代の市民が多種多様なスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会の増加に努めます。

スポーツ振興団体と協力し、指導者研修や指導者の活用の促進、次世代の指導者の育成等に取り組みます。

事業名	①生涯スポーツ・レクリエーション活動の振興			
施策の内容	○特色ある講座やスポーツ・レクリエーション等様々な取組を展開し、幅広い世代の多くの市民が年齢や体力に応じ気軽にスポーツに親しめる環境を整えます。 ○指導者研修等により、市民ニーズに対応できる指導者の確保に努めます。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○市内学校の体育館や校庭等の体育施設を、学校教育に支障のない範囲内で市民へ開放した。 ○各種スポーツ大会や、イベント、教室等を実施した。 ○令和7年度全国小中学生ウエイトリフティング大会を高萩市文化会館において開催した。 ○プロスポーツチーム関係事業については、茨城アストロプラネッツ及び水戸ホーリーホックに加え、令和7年度に協定を締結した茨城ロボッツ及びA s t e m o リヴァーレ茨城の4チームのホームゲームにおける「高萩市の日」において、多くの市民を招待するとともに、高萩市P R イベントを実施した。併せて市内の小学生を対象にした各種スポーツ教室を実施した。 ○中学校休日部活動の地域展開の進捗状況は、市内の学校部活動で実施している8競技のうち、柔道は地域クラブに移行済みとなり、吹奏楽部の活動についても地域団体の協力を得て活動している。その他7競技が3校合同を実施した。 ○スポーツ少年団主催による指導者・父母の会研修会を開催し、子どもたちの健全な心身の発達を支えることを目的として、食育について学んだ。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○ホームページやSNS等を活用した情報発信及び市内学校へのチラシ配布により周知を図るとともに、各種団体と連携を推進し、市内スポーツの普及啓発並びに生涯スポーツ人口の増加に努める。 ○中学校休日運動部活動の地域展開については、令和9年度の完全移行に向け、生徒が活動できる場所や指導者、活動内容などの確保に努める。 ○プロスポーツチーム関係事業において、子どもたちを始め多くの市民が、一流の選手や指導者と触れ合う機会を身近に感じ			

	られるよう、段階的に事業を拡充していく。
--	----------------------

主 要 事 業 指 標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
各種スポーツイベント等への参加者数	3,200人	1,203人	1,831人	2,129人	2,227人	3,500人

外 部 評 価 委員の評価	○7年度も全国小中学校ウエイトリフティング大会が文化会館で開催できたことを高く評価する。ウエイトリフティングの街というイメージが定着しつつあると感じる。 ○プロスポーツチーム関係事業で、茨城アストロプラネッツ、水戸ホーリーホック、茨城ロボッツ、Astemoリヴァーレ茨城の4チームのホームゲームにおける「高萩市の日」で、市民の招待や市のPR活動ができたのは素晴らしい。また、昨年同様にプロスポーツチームによる小学生対象のスポーツ教室が開催できたこともよかった。 ○プロスポーツチーム関係事業については、素晴らしい取り組みである。もう少しPRも必要かとは思いますが、これからも、「高萩市の日」の応援だけでなく、オフシーズンを利用して、市民を対象とした体験や教室、練習指導などのイベントを積極的に取り入れてもらいたい。 ○幅広い世代の市民が年齢や体力に応じたスポーツに親しめるよう、各種スポーツ大会、スポーツ教室、イベント等が開催されており、「主要事業指標」の「各種スポーツイベント等への参加者数」が、7年度も2,227人(昨年度比98人増)と増加しており、取組の成果となって表れている。 ○中学校休日部活動の地域展開については、運動部・吹奏楽部ともに少しずつ形になってきている点は評価できるが、9年度の完全移行に向けて、指導者や謝金、受益者負担金、さらに活動時間や場所(吹奏楽部の楽器保管場所等を含む)など、依然として多くの課題がある。専門部会や部活動顧問会等を活用するとともに、市、地域団体、学校が緊密に連携・協力し合いながら着実に取り組んでいくことを期待する。
------------------	--

事業名	②スポーツ施設の整備と活用			
施策の内容	○幅広い世代の市民が、スポーツ施設を活用し、ライフステージに応じてスポーツ活動に取り組むことができるよう、計画的に各施設を整備します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○各施設とも老朽化が進む中、必要に応じた修繕等を実施し、施設利用者が快適に利用していただけるよう整備に努めた。 ○市民球場は、令和6年10月1日から指定管理者制度による管理体制へと移行し、現在もその体制で管理運営を継続している。 ○高浜スポーツ広場は、旧石滝サッカー場の集約化を行い、サッカー競技を中心に広く多目的な利用が可能となるよう人工芝グラウンドを整備した。地域スポーツの振興や青少年の育成、市外からの交流人口や継続的な関係性を持つ関係人口の増加を図り、地域全体の活性化に資する拠点を目指す。 ○市民球場及び高浜スポーツ広場人工芝グラウンドにおいて予約システムを導入した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○所管する全施設において老朽化が進んでいる状況であるため、高萩市公共施設等管理計画及び高萩市公共施設個別施設計画を踏まえ、将来的な集約・廃止を見据えた施設管理・修繕・更新等をしていく。 ○所管する全施設において予約システムを導入していく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
スポーツ施設利用者数	102,217人	146,897人	152,235人	109,039人	105,449人	100,000人

外部評価 委員の評価	○利用者が安全で快適に使用できるよう、各施設の老朽化に対して施設や物品の修繕、整備が7年度も適切に実施されている。 ○高浜スポーツ広場の人工芝グラウンドが完成した。予約方法が簡易化されてオンライン予約となった。市民球場と高浜スポーツ広場の人工芝グラウンド以外の施設も同様に早期にオンライン予約に移行していくということで、市内の各スポーツ施設の積極的な活用が期待される。 ○高浜スポーツ広場人工芝グラウンドも完成して、スポーツ施設利用者数も増えると思われるので、令和8年度以降は、目標値の引き上げも検討してもらいたい。
---------------	---

(4) 市民文化

創作・発表の場があり、文化団体やグループ・サークル活動が活発に行われるなど、文化活動が充実した社会を目指します。

郷土の歴史や文化財を知り、身近に触れることができ、郷土に関心を持てる環境を整えます。

市内の指定文化財の適切な保護・保存・活用を進め、本市の歴史や文化財に興味・関心を持つ市民を増やします。

外国人との交流や外国文化に触れる機会を増やし、異文化への関心を高めていきます。

事業名	①芸術文化の振興			
施策の内容	○市民のニーズに合った芸術・文化活動を身近に感じられるよう、芸術文化活動への支援の充実を図ります。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○高萩市文化協会が主催する文化祭については、4日間にわたり展示・ステージ発表を行った。また、各団体において会員の勧誘に努めている。 ○中学生以下を対象とした子ども文化教室を1日開催した。 ○長久保赤水記念館については、朗読と音楽を取り入れた「ミュージアムコンサート」を開催し、市民の読書活動及び文化活動の推進を図った。 ○文化会館については「オペラ名曲コンサート MIKA KUNII & Friends」、「市民音楽祭」「ひな祭りコンサート」や観劇会・映画会など6本の自主事業を開催し、幼児から高齢者まで多くの市民が来館した。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○文化団体に、幅広い年齢層からの参加を呼びかける。さらに新たな活動の場を提供し支援する。 ○幅広い年齢層にアプローチできる文化会館自主事業を検討していく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
文化祭の参加者数	2,710人	1,320人	1,500人	1,800人	2,300人	2,710人

外部評価 委員の評価	○中学生以下を対象とした高萩市文化協会主催の子ども文化教室が7年度も1日開催できてよかった。今後も継続できるようお願いしたい。 ○長久保赤水記念館での朗読と音楽を取り入れた「ミュージアムコンサート」の開催は大変素晴らしい取組である。 ○市文化祭が4日間開催され、文化会館でも自主事業が6本開催されている。そうした取組の成果が「主要事業指標」の「文化祭の参加者数」の大幅増加につながっていると感じる。7年度は2,300人（昨年度比500人増）であり、幼児から高齢者まで多くの市民が参加したことは大変素晴らしい。努力の賜である。
---------------	---

事業名	②文化財の保護・保存・活用			
施策の内容	○郷土の貴重な文化財を保存・伝承するとともに展示や周知することにより、市内にある文化財の価値や魅力を広く発信します。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○令和２年９月に、長久保赤水関係資料 693 点が国の重要文化財に指定されたことにより、文化財の継承と適切な保存のため、令和３年から 10 年の 8 ヶ年計画で 33 点の保存修理を進めている。令和 7 年度末現在で修理対象資料のうち 18 点の修理が完了した。 ○穂積家の利活用については、市内団体による朗読会を５月から 10 月の期間毎月行う等の利用があった。 ○長久保赤水記念館のパンフレットを、愛称を大きく表示したものへ差し替えるなど、愛称の周知を図った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○長久保赤水の関係資料の修理については、国の補助金を活用し、計画的に事業を進めている。今後は、修理成果の積極的な情報発信や国庫補助以外の財源確保に努めるとともに、長久保赤水の顕彰事業を推進し、郷土の歴史、文化への理解促進を図っていく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
高萩市歴史民俗資料館の入館者数	3,010 人	1,511 人	1,793 人	2,102 人	1,662 人	3,600 人

外部評価 委員の評価	○穂積家の利活用について、市内各団体による活用もできるよう工夫しており、朗読会を５月から 10 月の期間毎月開催できたことは大変喜ばしい。今後も市内団体の活用が継続できるよう努めていただきたい。 ○長久保赤水記念館での朗読と音楽を取り入れた「ミュージアムコンサート」の開催は大変素晴らしい取組である。しかし、残念ながら「主要事業指標」の「高萩市歴史民俗資料館の入館者数」は、7 年度は減少してしまった。児童生徒や市民の減少も大きく関わっていると思われるが、市外からの来訪者を増やせるよう、大変でも今後も情報発信等の P R や集客の努力をお願いしたい。
---------------	--

事業名	③ 市民による国際交流推進			
施策の内容	○市内外の外国人との交流や外国文化に触れる機会の増加に向け取り組みます。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○高萩市国際交流協会主催の市内中学生「海外派遣事業」については、コロナ禍以降の渡航費高騰の影響を踏まえ、中止が決定した。 ○市内在住の外国人のコミュニティ形成の場として令和５年度から毎月開催している「にほんご教室もみじ」について、市内在住の外国人に対して周知を図るため、郵送によるチラシ配布を実施した。 ○「高萩国際交流の集い」について、参加大学側の働き方改革によりGWでの開催が困難となったため７年度は中止とし、学校側との調整や協会内での意見を聴収する場を開催した。 ○国際交流協会の活動内容やイベント情報を周知するため公式LINEを開設。外国人の方を含め３４名の方が登録。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○高萩市国際交流協会と協働して、外国文化に触れる機会や市内在住外国人との交流の創出を継続していく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
「高萩国際交流の集い」 参加者数	20人 (留学生) 15家族 (HF)	—	—	10人 (留学生) 7家族 (HF)	—	20人 (留学生) 18家族 (HF)

外部評価 委員の評価	○「高萩国際交流の集い」については７年度は事情により中止となったが、参加大学側との調整や市国際交流協会内での意見聴収の場を開催した取組は高く評価する。この取組により８年度８月に「高萩国際交流の集い」が開催予定となったのは大変素晴らしい。 ○「日本語教室もみじ」は令和５年７月から継続して毎月第３木曜日に開催されており、国際交流協会会員やボランティアの方々のご努力の賜である。
---------------	---

(5) 防犯

警察等の関係機関と連携し、防犯に関する広報や啓発活動を通して市民の防犯意識の高揚に努め、地域ぐるみの防犯・地域安全活動を推進します。

事業名	学校外での子どもの安全確保と健全育成			
施策の内容	○子どもたちが事件や事故に巻き込まれることがないように、ボランティア等による見守り活動の実施や、青少年相談員による相談・巡回活動の充実を図ります。			
担当課	生涯学習課			
実施内容	○はぎッズ応援隊等による登下校時の立哨指導を行った。 ○青少年相談員と学校の連携を強化するために、相談員による学校訪問を実施した。令和6年度は市内中学校でのみ実施したが、令和7年度は市内小学校においても実施した。また相談員による巡回活動や、防犯のぼり旗の設置も行った。 ○体験活動を通して子どもたちの健全育成を図る「少年探検講座」を開催した。 ○防災無線を活用し、ながら見守りを呼びかけた。(教育総務課) ○メルたか、マチコミメール等を活用し、防犯情報の提供を行った。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○各種団体による子ども達の安全確保活動が継続的に実施されているが、更なる人材確保、連携強化が求められている。今後は、行政、学校、地域ボランティア等との情報共有を進め、地域全体で、子ども達の安全確保と健全育成に取り組んでいく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
地域子ども安全ボランティア登録人数	43人	37人	25人	27人	27人	60人

※ R5以降の登録人数については、「地域子ども安全ボランティア」の組織を改編したため、「はぎッズ応援隊 見守りボランティア」の登録人数とした。

外部評価 委員の評価	○6年度は青少年相談員の学校訪問が中学校で行われた。7年度は青少年相談員と学校の連携がさらに強化できるよう小学校においても実施しており、大変よい取組である。 ○メルたか、マチコミメールの活用及び防災無線での「ながら見守り」の呼びかけは、市民の日常的な防犯意識の高揚につながっており、なくてはならないものになっている。防犯のぼり旗の設置や青少年相談員の巡回も、継続していただきたい。
---------------	--

(6) 人権

市民一人一人の人権が尊重されるまちを構築します。

事業名	学校における人権教育の推進			
施策の内容	○学校教育や生涯学習などの場において人権教育を実施し、差別や偏見がなく、人権の尊重についての理解を深める学習に取り組めます。			
担当課	学校教育課・生涯学習課			
実施内容	○人権教育推進全体計画や人権教育推進計画をもとに、組織的、計画的に人権教育に取り組んだ。 ○人権フォーラムの開催、人権ポスターやメッセージの作成、人権コーナーの設置を通して、各校において人権意識の涵養に努めた。 ○各学校においては、人権問題啓発映画「ホーム」の視聴や人権教育指導資料を活用しての教職員研修を行った。 ○「人権学習講師派遣事業」や「性的マイノリティへの理解促進に関する講師派遣事業」の活用促進を図り、各種学習会を開催した。 ○各学校に性的マイノリティサポートチームを設置することで、誰に相談すれば良いか分からないという児童生徒の不安を解消し、安心して相談できる窓口（養護教諭、スクールカウンセラー、特定の教員など）を明確にした。			
評価	☐ 順調	☒ ほぼ順調	☐ 横ばい	☐ 不調
課題と今後の取組	○人権集会や講演会など、単発のイベントで人権教育を終えることなく、年間を通して継続的かつ系統的に取り組んでいく。 ○人権感覚や人権意識といった内面的な変化を数値で測ることが難しいが、各種アンケートの分析や児童生徒の変容から教育効果を評価し、改善につなげることができるようしていく。			

主要事業指標 (総合計画の成果指標)	基準値 (R2)	実績値				目標値 (R7)
		(R4)	(R5)	(R6)	(R7)	
人権が尊重されているまちであると思う市民割合	45.6%	—	—	—	48.4%	60.0%

※人権課題

- ①女性 ②子ども ③高齢者 ④障害者 ⑤部落差別（同和問題）
 ⑥アイヌの人々 ⑦外国人 ⑧感染者等 ⑨ハンセン病患者等
 ⑩刑を終えて出所した人 ⑪犯罪被害者 ⑫インターネットによる人権侵害
 ⑬北朝鮮当局による人権侵害 ⑭ホームレス ⑮性的マイノリティ
 ⑯人身取引 ⑰震災等の災害 ⑱ゲノム情報（遺伝情報）

外部評価 委員の評価	○各学校では継続して人権フォーラムを開催し、人権ポスターやメッセージの作成、人権コーナーの設置を通して児童生徒の人権意識の涵養を図っている。 ○「人権学習講師派遣事業」「性的マイノリティへの理解促進に関する講師派遣事業」を活用した講演会の実施や教職員研修は、「事業」が消滅したり形が変わったりしても是非継続してほしい。 ○各校への性的マイノリティサポートチームの設置、相談窓口の設置は大変よい取組であり、今後も継続してほしい。 ○「主要事業指標」の実績値は目標値に届かなかったが、2年度の実績値を上回っており、着実に「人権が尊重されているまち」に向かっていると感じられる。
-----------------------	--

Ⅲ 外部評価委員会委員の意見

○「主要事業指標」の目標値達成に向けての各担当課の企画、運営への努力がひしひしと感じられる報告書になっている。

○各事業ともに努力の足跡が記述に表れている。今後は、さらに分かりやすくするために、各事業の「実施内容」の文言の中に、事業自体を評価できるような具体的な評価指標となる実績値を意識して多く記述していただきたい。

○全体的に、昨年度よりもほぼ順調になってきているのではないかとと思う。ただし、毎年子供の出生率も少なくなっており、この先高萩市から子供がいなくなるのではという危機感も感じている。子育てしやすい環境はもちろんだが、高萩市に住むと住居費がいくらか免除されるとか、子育て世代を呼び込むための特典があるとよいのではないかと思った。

Ⅳ 参考資料

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。